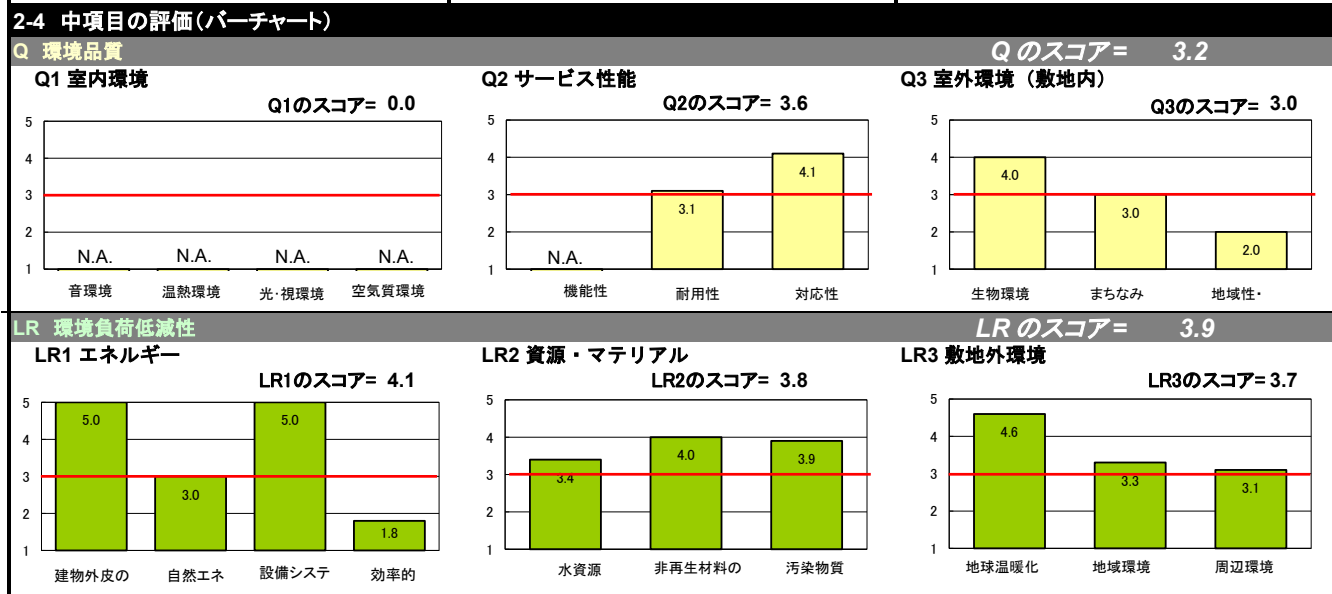
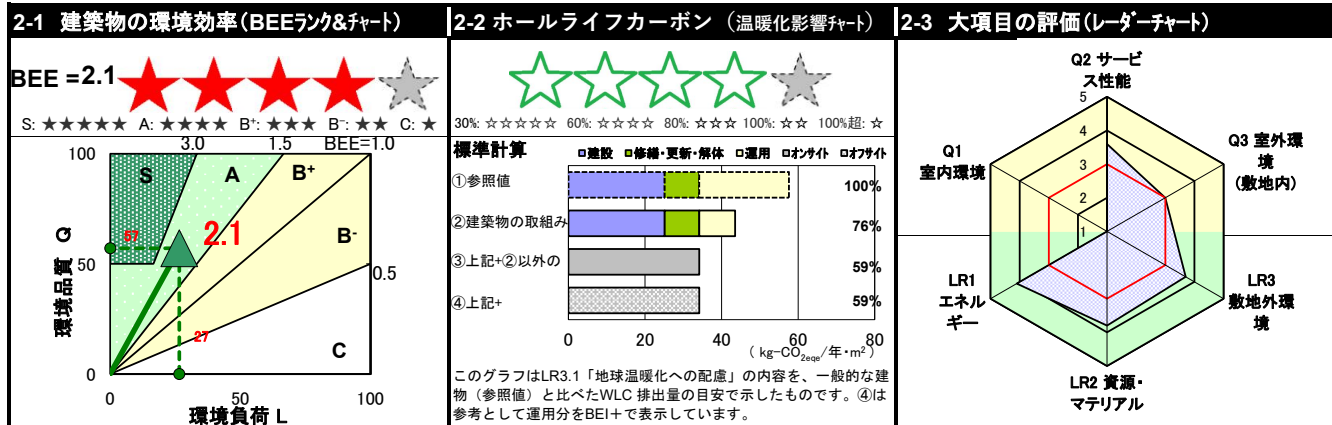


CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2024年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.2

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)T-LOGI柏・野田II 新築工事	階数	5
建設地	千葉県野田市瀬戸上ノ台616番地 他27筆	構造	S造
用途地域	指定なし	平均居住人員	- 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2025年12月 予定	評価の実施日	2025年11月20日
敷地面積	15,475 m ²	作成者	株式会社イビコンサルティング
建築面積	9,202 m ²	確認日	2025年11月20日
延床面積	35,442 m ²	確認者	



3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <ul style="list-style-type: none"> 千葉県野田市瀬戸に位置する倉庫業を営む倉庫である。 広大な敷地には緑地を積極的に設け、周辺地域への配慮を行った敷地計画である。 		<p>その他</p>
<p>Q1 室内環境</p> <p>評価対象外</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <ul style="list-style-type: none"> 補修必要間隔の長い内装仕上げを採用し、ライフサイクル計画の長寿命化を図った。 壁長さ比率や天井高、荷重に余裕を持たせゆとりのある空間とした。 	<p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <ul style="list-style-type: none"> 景観に配慮し、外からの見え方の検討や豊かな植栽を採用した外観計画とした。
<p>LR1 エネルギー</p> <ul style="list-style-type: none"> LED照明器具の採用により、エネルギー削減を図った。 	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <ul style="list-style-type: none"> 自動水栓や省水型機器を用いた。 使用する材料に配慮しており、デッキプレートによる材料使用量の削減やエコマークやグリーン購入法対象品などのリサイクル材を採用し、資源保護に努めた。 	<p>LR3 敷地外環境</p> <ul style="list-style-type: none"> 燃焼機器は使用せず、大気汚染防止に配慮している。 車の出入り口を複数確保し、自動車の渋滞緩和に配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ホールライフカーボン(WLC)」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の温室効果ガス排出量のこと。ここでは、建築物の寿命年数で除した年間温室効果ガス排出量で表示。

■評価対象のWLC排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

無断転載禁止

CASBEE-建築(新築)2024年版
 (仮称)T-LOGI柏・野田II 新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2024年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.2

スコアシート		竣工段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体			
		Q 建築物の環境品質						3.2	
Q1 室内環境									
1 音環境		-	-						
1.1 室内騒音レベル	-	-	-						
1.2 遮音	-	-	-						
1 開口部遮音性能	-	-	-						
2 界壁遮音性能	-	-	-						
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	-								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	-								
1.3 吸音	-	-	-						
2 温熱環境		-	-						
2.1 室温制御	-	-	-						
1 室温	-	-	-						
2 外皮性能	-	-	-						
3 ゾーン別制御性	-	-	-						
2.2 湿度制御	-	-	-						
2.3 空調方式	-	-	-						
3 光・視環境		-	-						
3.1 屋光利用	-	-	-						
1 屋光率	-	-	-						
2 方位別開口	-								
3 屋光利用設備	-	-	-						
3.2 グレア対策	-	-	-						
1 屋光制御	-	-	-						
3.3 照度	-	-	-						
3.4 照明制御	-	-	-						
4 空気質環境		-	-						
4.1 発生源対策	-	-	-						
1 化学汚染物質	-	-	-						
4.2 換気	-	-	-						
1 換気量	-	-	-						
2 自然換気性能	-	-	-						
3 取り入れ外気への配慮	-	-	-						
4.3 運用管理	-	-	-						
1 CO ₂ の監視	-	-	-						
2 喫煙の制御	-	-	-						
Q2 サービス性能		-	0.43	-	-	3.6			
1 機能性		-	-						
1.1 機能性・使いやすさ	-	-	-						
1 広さ・収納性	-	-	-						
2 高度情報通信設備対応	-	-	-						
3 バリアフリー計画	-	-	-						
1.2 心理性・快適性	-	-	-						
1 広さ感・景観	-	-	-						
2 リフレッシュスペース	-	-	-						
3 内装計画	-	-	-						
1.3 維持管理	-	-	-						
1 維持管理に配慮した設計	-	-	-						
2 維持管理用機能の確保	-	-	-						
2 耐用性・信頼性		3.1	0.50			3.1			
2.1 耐震・免震・制震・制振	-	3.0	0.50						
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	-	3.0	0.80						
2 免震・制震・制振性能	-	3.0	0.20						
2.2 部品・部材の耐用年数	-	3.2	0.30						
1 躯体材料の耐用年数	-	3.0	0.20						
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	-	2.0	0.20						
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	浸透性表面強化剤	5.0	0.10						
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	-	3.0	0.10						
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水:水道用ポリエチレン管、排水:耐火二層管、冷媒:銅管	4.0	0.20						
6 主要設備機器の更新必要間隔	-	3.0	0.20						
2.4 信頼性	-	3.4	0.20						
1 空調・換気設備	災害時に空調・換気の優先運転が計画されている	4.0	0.20						
2 給排水・衛生設備	-	2.0	0.20						
3 電気設備	-	3.0	0.20						
4 機械・配管支持方法	耐震クラスA以上	4.0	0.20						
5 通信・情報設備	通信手段の多様化を図る	4.0	0.20						

3 対応性・更新性			4.1	0.50		-	4.1
3.1 空間のゆとり			4.4	0.30		-	
1 階高のゆとり		階高にゆとりを設けている	4.0	0.60		-	
2 空間の形状・自由さ		形状の自由さに配慮している	5.0	0.40		-	
3.2 荷重のゆとり			5.0	0.30		-	
積載荷重に配慮している							
3.3 設備の更新性			3.4	0.40		-	
1 空調配管の更新性		-	3.0	0.20		-	
2 給排水管の更新性		-	3.0	0.20		-	
3 電気配線の更新性		電気配線の更新性に配慮	5.0	0.10		-	
4 通信配線の更新性		通信配線の更新性に配慮	5.0	0.10		-	
5 設備機器の更新性		-	3.0	0.20		-	
6 バックアップスペースの確保		-	3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.57		-	3.0
1 生物環境の保全と創出		自生種に配慮した植栽計画を行っている	4.0	0.30		-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮		-	3.0	0.40		-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30		-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		-	2.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		-	2.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性							3.9
LR1 エネルギー			-	0.40		-	4.1
1 建物外皮の熱負荷抑制		高い外皮性能を確保	5.0	0.20		-	5.0
2 自然エネルギー利用(直接利用)		-	3.0	0.10		-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEI=-0.82	5.0	0.50		-	5.0
集合住宅以外の評価			5.0	1.00		-	
集合住宅の評価							
4 効率的運用に向けた取組み			1.8	0.20		-	1.8
集合住宅以外の評価			1.8	1.00		-	
4.1 モニタリング		-	2.0	0.40		-	
4.2 運用管理体制		-	1.0	0.40		-	
4.3 非化石エネルギーの導入の拡大		-	3.0	0.10		-	
4.4 コミュニケーションの推進		-	3.0	0.10		-	
集合住宅の評価							
4.1 モニタリング		-					
4.2 運用管理体制		-					
LR2 資源・マテリアル			-	0.30		-	3.8
1 水資源保護			3.4	0.20		-	3.4
1.1 節水		省水型機器を採用	4.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無		-	3.0	0.70		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無		-	3.0	0.30		-	
2 非再生性資源の使用量削減			4.0	0.60		-	4.0
2.1 材料使用量の削減		Smart-MAGNUM工法の採用	4.0	0.11		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		-	3.0	0.22		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.22		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		ビニル系床材、タイルカーペット、フリーアクセスフロア	5.0	0.22		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		-	-	-		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		OAフロアの採用	5.0	0.22		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.9	0.20		-	3.9
3.1 有害物質を含まない材料の使用		4種類の建材についてPRTR法非該当を確認	5.0	0.30		-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70		-	
1 消火剤		-	-	-		-	
2 発泡剤(断熱材等)		ODP=0かつGWPが10未満の断熱材等を使用	4.0	0.50		-	
3 冷媒		-	3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境			-	0.30		-	3.7
1 地球温暖化への配慮		WLC排出量59%	4.6	0.33		-	4.6
2 地域環境への配慮			3.3	0.33		-	3.3
2.1 大気汚染防止		燃焼機器を使用していない	5.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善		-	3.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.5	0.25		-	
1 雨水排水負荷低減		-	3.0	0.25		-	
2 汚水処理負荷抑制		-	3.0	0.25		-	
3 交通負荷抑制		-	3.0	0.25		-	
4 廃棄物処理負荷抑制		-	1.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33		-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		-	
1 騒音		-	3.0	1.00		-	
2 振動		-	-	-		-	
3 悪臭		-	-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40		-	
1 風害の抑制		-	3.0	0.70		-	
2 砂塵の抑制		-					
3 日照阻害の抑制		-	3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20		-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		光源は、総合効率の高いものを採用	4.0	0.70		-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		-	3.0	0.30		-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	2.0	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	2.0	1.0	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	3.0	-	○	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	12.0	-	2.0	2.0	3.0	-	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	3.0	-	2.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0	-	-	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	5.0	-	-	1.0	-	2.0	-	-	-	-	-	2.0	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用(直接利用)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4.1.4 コミュニケーションの推進	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.1 雨水利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	4.0	-	-	4.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	4.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	6.0	-	1.0	-	-	3.0	1.0	-	-	-	1.0	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	2.0	-	-	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	1.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0	-	1.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
主な指標															
Q1 室内環境															
2.1.3 外皮性能	窓システムSC - 窓の日射熱取得率(η) - U値(W/m2K) 窓システム - 屋根 - 外壁 - 床 - 住戸部分 窓システムU値 - 外皮UA値 - ηAC - ηAH - 屋光率 0.0% 自然換気有効開口面積率 0.0%														
3.1.1 屋光率	屋光率 0.0%														
4.2.2 自然換気性能	自然換気有効開口面積率 0.0%														
Q2 サービス性能															
1.1.1 広さ・収納性	執務スペース 0.0㎡/人 病床 0.0㎡/床 シングル 0.0㎡ ツイン 0.0㎡														
1.1.2 高度情報通信設備対応	コンセント容量 0.0 VA/㎡														
1.2.1 広さ感・景観	天井高 0 m														
1.2.2 リフレッシュスペース	リフレッシュスペース 0.0% レストスペース 0.0%														
2.2.1 躯体材料の耐用年数	想定耐用年数 0 年														
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	想定必要間隔 15 年														
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	想定必要間隔 20 年														
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔	想定必要間隔 0 年														
3.1.1 階高のゆとり	階高 3.85 m														
3.1.2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率 6.0%														
3.2 荷重のゆとり	床荷重 15000 N/m2														
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	外構緑化指数 52% 建物緑化指数 0%														
3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率 41% 水平投影面積率 3% 地表面対策面積率 22% 舗装面積率 31%														
LR1 エネルギー															
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI/BPI _m 0.65 断熱等性能等級 0 相当														
2 自然エネルギー利用(直接利用)	影響範囲の割合 0.0% 採光を満たす教室数 0.0% 採光を満たす住戸数 0.0% 通風を満たす教室数 0.0% 通風を満たす住戸数 0.0% 太陽光 0kW 太陽熱等 0kW 蓄電池 0kWh														
3 設備システムの高効率化	BEI/BEI _m 再エネ有 - 無 0.40 オフサイト再エネ有 - ○○GJ/年														
非住宅部分	一次エネルギー削減率 再エネ有 ##### 無 #####														
集合住宅															
LR2 資源・マテリアル															
1.2.1 雨水利用システム導入の有無	雨水利用率 0.0%														
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	特定調達品目 - エコマーク商品 - 自治体指定の特定品目等 -														
2.5 持続可能な森林から産出された木材	使用比率 0.0%														
3.2.1 消火剤	オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)														
3.2.2 発泡剤(断熱材等)	オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 3														
3.2.3 冷媒	オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)														
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	見付面積比 90% 隣棟間隔指標Rw 2.28 地表面対策面積率 23.0% 屋根面対策面積率 0.0% 外壁面対策面積率 0.0% 見付面積Sb 2.771㎡ 卓越風向と直交する最大敷地幅Ws 155.986 m 基準高さHb 29.629 m 緑地 3.054㎡ 水面 ㎡ 保水性対策面 ㎡ 高反射対策面 ㎡ 再帰性反射対策面 ㎡														